

ぎふクリーン農業における各種代替技術

(1) 化学合成農薬の使用を減少させる技術

○ 温湯種子消毒技術	種子を温湯に浸漬することによって、当該種子に付着した有害動植物を駆除する技術 水稲の種子消毒 など
○ 機械除草技術	有害植物を機械的方法により駆除する技術
○ 除草用動物利用技術	有害植物を駆除するための小動物の農地における放し飼いをを行う技術 水田におけるアイガモ など
○ 生物農薬利用技術	農薬取締法第1条の2第2項の天敵であって、同法第2条第1項又は第15条の2第1項の登録を受けたものを利用する技術 天敵、微生物農薬 など
○ 対抗植物利用技術	土壌中の有害動植物の防除、またはまん延を防止する効果をもつ植物を栽培する技術 マリゴールド、クロタリア、ギニアグラス など
○ 抵抗性品種栽培・台木利用技術	有害動植物に対して抵抗性をもつ品種の栽培、または当該農作物を台木として利用する技術
○ 土壌還元消毒技術	土壌中の酸素の濃度を低下させることにより、土壌中の有害動植物を駆除する技術
○ 熱利用土壌消毒技術	土壌に熱を加えてその温度を上昇させることにより、土壌中の有害動植物を駆除する技術
○ 光利用技術	有害動植物を駆除し、又はそのまん延を防止するため、有害動植物を誘引、忌避、またはその生理的機能を抑制する効果を有する光を利用する技術 シルバーフィルム、黄色・青色粘着板、黄色蛍光灯、紫外線除去フィルム など
○ 被覆栽培技術	農産物を有害動植物の付着を防止するための資材で被覆する技術 雨よけ、べたがけ、トンネル、袋かけ、防虫ネット など
○ フェロモン剤利用技術	農産物を害する昆虫のフェロモン作用を有する物質を有効成分とする剤であって、農薬取締法第2条第1項又は第15条の2第1項の登録を受けたものを利用する技術
○ マルチ栽培技術	土壌の表面を有害動植物のまん延を防止するための資材で被覆する技術 フィルムマルチ、紙マルチ、草生栽培、稲わらマルチ など

(2) 化学肥料の施用を減少させる技術

○ 局所施肥技術
肥料を作物の根の周辺に集中的に施用する技術 水稲の側条施肥、植穴施用、溝施用、部分施肥、マルチ内施肥 など
○ 肥効調節型肥料施用技術
肥料成分の溶け出す量や速度を調節できるように製造された肥料を施用し、施肥回数、施肥量の削減を図る技術
○ 有機質肥料施用技術
有機質（動植物質のものに限る）を原料として使用する肥料を施用する技術 油粕、魚かす、骨粉、たい肥 など

(3) 土づくり技術

○ たい肥等有機質資材施用技術
たい肥その他有機質資材を施用する技術 ※C/N比がおおむね10～150の範囲のもの 各種たい肥、稲わら、麦稈、作物残渣 など
○ 緑肥作物利用技術
緑肥作物を栽培して、農地にすき込む技術 レンゲ、ソルゴー、ライ麦、クロタラリア など